

第73回「ハートミーティング」意見交換の内容について

右京区役所「ステキ☆力向上委員会」

★市長からのコメント

- 若手職員は目先のことや損得にとらわれずに感性豊かに活動できる力を持っている。固定観念を取り払い、考え、動くことができる能力を存分に生かしてほしい。また、常識にとらわれず多面的に問題分析し、第一線で100年先を見据えて働き方改革、区役所改革、社会の在り方改革をしてほしい。その際には、本質的にものを考え、未来に責任を持つことが重要である。
- 区役所で働いている職員が区民に一番近く、区民の悩みや可能性を一番身近に感じることができる。区民がもつ地域力、文化力、歴史力、人間力を生かし、それぞれの色がある区役所を作してほしい。
- 新しいことをやるときには必ず反対する人がいる。市民のためになる政策であるならば、反対している人としっかりと議論し、説得してでも進めてほしい。信念が伝わったとき、反対していた人は強力な応援者になってくれる。市民のために説得してでも進めたいという信念、ビジョンをもって事業に取り組んでほしい。
- 右京区は大きな行政区であるため、今後の発展の可能性が大きい分、課題も多い。右京区の可能性・課題のために、このように若手職員が頑張ってくれていることは非常に嬉しい。プロジェクトの今後の更なる発展を願っている。

★参加メンバーからの主な声

- 固定観念なく仕事ができることが若手の魅力であるという話を伺い、ステキ☆力向上委員会のメンバーを卒業しても引き続き新しい事業に取り組むことを心がけながら仕事をしたいと思いました。
- 目先のことにとらわれず、感性豊かに実行する能力を身に付けることは容易ではないと思いますが、少しでも市民の方の声をキャッチできるよう努めてまいりたいと思います。
- ハートミーティングで市長から直接いただいた言葉は、心へとても響きました。若手職員が期待されていることを肌で感じ、更に区民満足度の向上を目指し今後も活動していこうというモチベーションになりました。
- プロジェクトを通して右京区の様々な行事に参加できることは、自分たちが右京区の良さを知る上でも貴重な経験でしたし、横のつながりを持つことができたことは良い経験でした。
- 反対があるからあきらめるのではなく、反対意見が多いものでも本当に市民のためを思っている政策は説得してでも進められるよう、本質的に良いものを追及していきたいと感じました。